

この人はもう何もわからんよつて。

150 文徳マサー（イ）

（空手の修行）

字糸満 大城英次

類話

字糸満 上原亀広

字米須 仲宗根善道

この人は真面目で、喧嘩もやらないといった。だから、帰つて来てからよ、弟子はひとりもない。教えるといつて、もうみんな習いに行きよつたですよ。自分が強いと思つて。教えないで、あの山のところ、くによしびら国吉坂といひます。往復駆けさせよつて。歩かせよつて。また翌日になればまた向こう。簡単に教えない。「あんたらこれを知つても喧嘩をするもんじゃないよ。これ、自分を守るために空手を覚えなさい」。何回も空手を教える。向こうに、夜から向こうさわつて来いと。もうみんな呆れて。だから、弟子はひとりもない。

ほかの強い人がいるわけさ、喧嘩の好きな人が。仕掛けに来るですよ、この人のところに。来る時、唾を掛けられても喧嘩をしなかった。自分が強いから、喧嘩をしたら勝つから、向こうは死ぬからいつて。だから、向こうの人は勝つた言つてからね。あんな話を、